

愛知製鋼グループ社員が、水源の森育成ボランティアを実施

愛知製鋼株式会社(代表取締役社長:後藤尚英)は、11月8日(土)、長野県王滝村で水源の森を育成するボランティア活動を実施し、総勢44名が参加しました。

長野県王滝村などを水源とする愛知用水が、知多半島の農業・産業・人々の暮らしのために必要不可欠な存在であることから、当社グループでは、愛知用水の水源を守る活動の一環として2006年から毎年継続してボランティア活動を実施しています。

2019年4月には、王滝村と「森林(もり)の里親制度」を締結し、約28haの森林を「愛知製鋼グループの森」として整備活動に取り組んでいます。

今回は、当社・グループ会社の社員・家族28名に加え、当社技術学園生が11名、越原村長と地域行政の職員合わせて5名が参加し、森林植樹のプロの指導のもと、「愛知製鋼グループの森」で除伐などの森林整備作業を行いました。

今後も当社は「環境に一番やさしい鉄屋」として、再エネの活用や地道な省エネ活動、技術開発などの取り組みに加え、地域環境を保護するボランティア活動を継続し、持続可能な地球環境への貢献を目指していきます。



森林の間伐作業の様子



ボランティア参加者の集合写真